



今回の2週連続の豪雪では、つくし野でもかなりの積雪になりました。ただでさえ坂の多い街で、戸建て住宅中心ですから、「雪かき」も個々の世帯ごとにやらざるを得ません。

まして2週連続ですから、腰が痛くなった方々も多いのでは…。やってみると「雪かき」はかなりの重労働。雪かき道具の差はありますが、時間も技術も必要で、私も大汗をかきました。めったにない「雪かき」ですが、移動安全の確保の面では即行でやらねばならず、普段では考えることもない作業についていろいろ考えさせられました。



## 1、雪かきでの公共性

雪かきをしていて誰もが気になるのが、「どこまで雪かきするか」ではないでしょうか。自宅前の通行を確保するのは最低限ですが、「公共の道」の除雪をどうするかがいちばん問題になります。特に「車道」の部分は、地元だけでなく、一般の通行（特に運送業など）もあり、本来は自治体所管だろうけど、即行性の面では実質無理なのは明らかです。

幸い、私の家の周囲は道幅もあまり広くもなく車の通行も少ないので、ご近所で連携を取り合い「車の通れる広さ」まで人力除雪しました。しかし、やはり「全戸がすべて協力しあって」とはいかず、一部は玄関からの通路と人が歩ける幅のみしかやらない家も出てきたり、タイミングがずれたり、そこだけシャーベット雪が残り朝晩は凍結して、もちろん車も出せず通勤通学の歩行も冷や冷やものでした。



**BIFOR**



ここが残ってしまった

**AFTER**

車の通行量の多い広い車道に面しているお宅は大変な作業ということも理解はできますが、実際の不便と、「やらない」ことによるご近所の陰口？など、いろいろ弊害もでてきて、放っておいていいことではないと思いました。さらに畑や遊休地・空き家・駐車場等の住人がいない場所や、歩道と車道両方がある家など、「誰がいつどこまでやるか」は不明確です。

## <では、どうするか…>

### ① 基本的ルール・マナーを決めておく

「雪かき」はつくし野のように坂の多い街ではライフライン的なことですが、全戸に関することであり「思い・姿勢」はまちまちでしょう。強制できることではないし、周囲の人も言いづらいはずです。そこで現行公共組織としてはやはり自治会（つくし野連合含む）等で議論してもらい、共生・助け合いの精神から「まずどこまでやるか」「公共部分はどうするか」の基本姿勢を打ち出し、周知してもらえないかと思います。



### ② 外部の力も活用した仕組みを検討する

震災ボランティアや豪雪雪かきボランティア等、大災害時にはボランティアが全国から駆け付けますが、今回程度では地元で対応するしかないでしょう。まして無償ボランティアは実態的に継続が難しいと思います。

そこで考え方を改めて「有償ボランティア」を地域で確保する仕組みがとれないか、と考えます。地域の各種サービス事業者・ボランティア団体等と「イザというとき出動を頼めるところ」を確保しておき、自治会費（毎年多額の繰り越しをしているはず）から「気持ち代」をお支払する。そんなに高額でなくともいいと思います、もともとボランティア精神の方々ですから。感謝の気持ちが伝わり、本人のモチベーションも上がり、長続きするのではないのでしょうか。

## 2、独居高齢者宅の雪かき

雪かきは正直かなり体力もいりますし、高齢者の方々には厳しい作業でしょう。雪国では、雪かき事故で亡くなる高齢者も毎年ニュースになっています。

私の近所では、高齢者宅の家の前を皆で協力して除雪しました。これはたまたま同時刻で作業していて協力しあえたこともありましたが、感謝されてこちらもちょうど清々しい気分になりました。



老人福祉は行政サービス、専門事業者サービスが中心ですが、こうした雪かきのような短期的ニーズには手が届かないでしょう。つくし野は高齢化が進んでいる地域です。

前述ルール・マナーや、仕組み適用の優先度を高めるなど、この機会に検討しておけば今後の災害対策にも通じるはずです。

ふるさとつくし野、この美しい街をさらに「住みよい相互扶助の進んだ街」にしていきたいと、喫緊の課題として問題提起にでもなれば、と思い寄稿しました。

つくし野三丁目民生児童委員、代谷正雄

以上



【大雪の翌日、つくし野の雪景色もなかなかですね】